

# 災害時に使えなくなったスマートフォンで通信の空白地帯を消す！ AI駆動型メッシュ通信デバイスCoMesh

## 背景

- 大規模災害時には、基地局の崩壊によって通信網が途絶し、被災地の状況把握が遅れる。
- 既存の通信インフラに依存しない情報収集・提供技術は急務だが、有効な手段は確立されていない。



災害時に確実に情報をやり取りできるオフライン環境対応のシステムが必要

## 特徴

- スマートフォンにCoMeshをアドインするだけ！
- LPWAメッシュネットワーク自動形成（基地局不要）
- 被災地の画像をAIが解析→建物の損壊度を自動判定
- 災害時だけでなく地域イベント・お祭り・登山にも利用



開発中のCoMeshモジュール

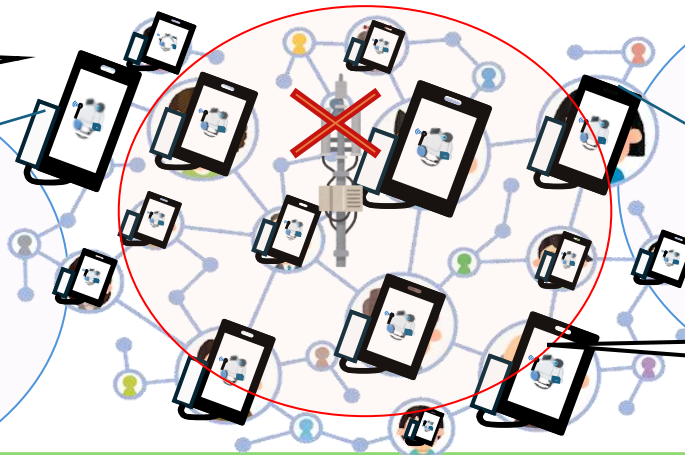
4G/5G圏外でもCoMeshネットワークが使える！

基地局に1人以上繋がる  
↓  
アドフォンネットワーク内  
(5G圏外)にもインター  
ネット情報を転送可能！

5G圏内

5G圏内

基地局崩壊時でも  
命に関わる重要な  
情報が被災地まで  
届く



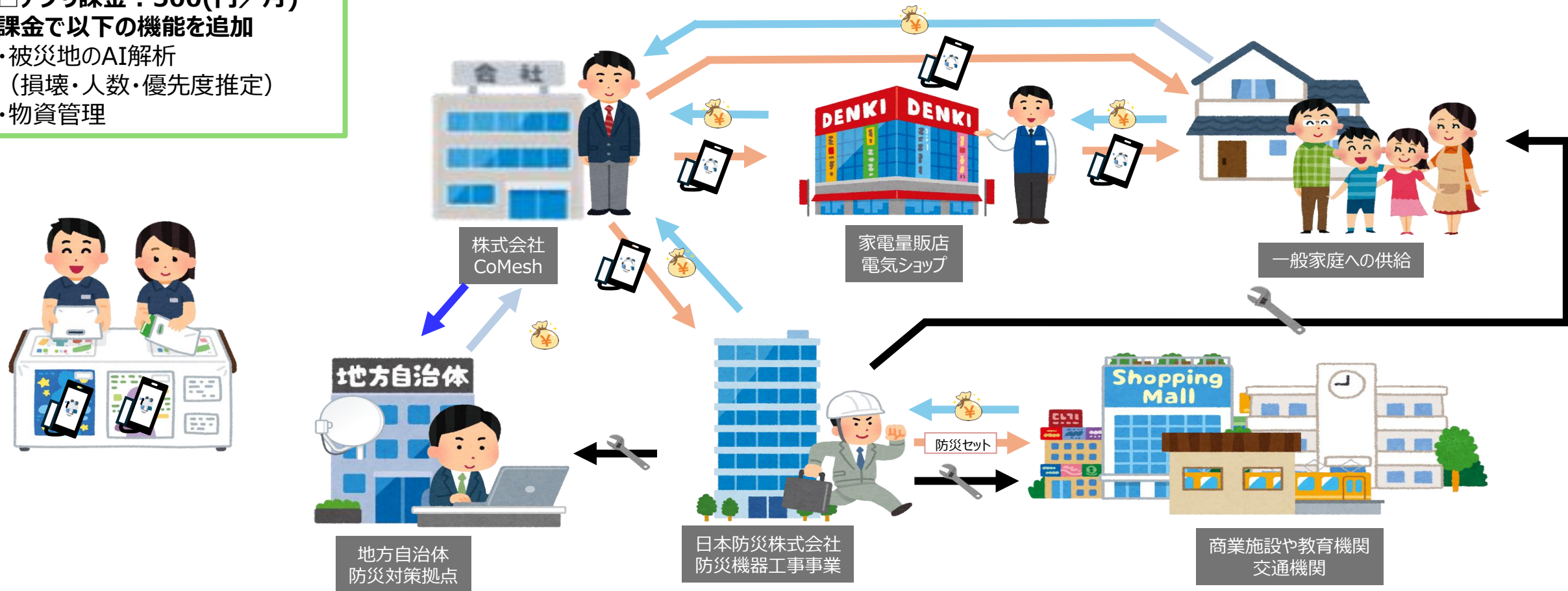
□ 本体価格：12,000 (円/個)

□ アプリ課金：500(円/月)

課金で以下の機能を追加

- ・被災地のAI解析  
(損壊・人数・優先度推定)
- ・物資管理

目標：3年目までに50万台（100世帯に1つ）



## 1. CoMeshの販売方法の工夫

開発したCoMeshを防災機器工事業を介した一部委託販売を行う。商業施設や教育機関、交通機関に常備されている消火器やAEDと一緒にセット販売及び設置を行うことで、普段は携帯していない外出時の災害でも、自分の身の安全を守ることができる。



## 2. 社会の防災必需品としての認知度の獲得

開発したCoMeshを社会の防災必需品としての認知度を獲得するために広告会社を介した宣伝を行う。具体的に駅内広告やSNSでの情報発信など普段生活で目に付くところで広告を行う。また、自社で防災セミナーを開き、使い方のセミナーを行う。

